まちづくりネットワーク岸和田議事録

- 日　時：平成 21 年４月 22 日（水）　18:30～20:45
- 場　所：市立公民館３階講座室
- 参加者：３０名（進行：大須賀　記録：池阪）
- ゲスト：萬屋誠司氏（「泉の和プロジェクト」事務局長、泉州だんじりの森設立準備委員）
- テーマ：「だんじり祭は未来の地球を救う」

萬屋　誠司（よろずや　せいじ）　さん

萬屋さんは岸和田生まれの岸和田育ち。小さい頃からだんじり囃子を聞いて大きくなりました。

そんな萬屋さんは「大好きなだんじりの魅力、そして岸和田の魅力を広くみんなに知って欲しい！」との想いから、だんじりに関する様々な執筆活動を行ってきました。またその活動は「岸和田だけでなく、泉州の良さもＰＲしたい！」と、昨年「泉の和プロジェクト」を立ち上げ、泉州の魅力を満載した「泉州力発見マガジン“ 0724 ”」を創刊しました。

最近の萬屋さんは大忙し！。というのも 100 年先のだんじり祭のために、新たなプロジェクトを立ち上げたからです。その名も“ 泉州だんじりの森プロジェクト ”です。

だんじりの本体やコマの材料となるケヤキやアカマツは生育するのに 100 年近くかかり、現在入手が困難になっています。だんじり祭を未来に伝えるようと、幼木の植樹活動を泉州地域で始めました。「100 年後もだんじりが走り、岸和田、そして泉州が元気でありますように…」との想いから取り組んでいます。

毎日まちづくり活動に走り回っている萬屋さんに、まちづくりの魅力、そして岸和田、泉州の魅力についてお話いただきます。お楽しみに…。

- 講演概要

《泉州全体のおはなし》

◆「泉の和プロジェクト」について

「泉の和プロジェクト」はおおさか地域創造ファンドの支援（３年間）を受け、設立。

目的は、わかりやすくいえば「泉州を元気にしたい」ということ。

◆大阪観光大学の中尾清教授の論文

『神戸と泉州の人口・面積は似かよっている。しかし、行政区域（自治体）ごとに泉州はバラバラであるため、アピール力が弱い』

◆泉州と「泉の和」

泉州を一つのエリアとして考え、そこから観光に繋げていけないかと考えました。自治体や観光関係の団体では、自分の町しか紹介できないという限界があります。そこをブレイクスルーするということで「泉の和プロジェクト」を立ち上げました。「泉の

和」では、シティ情報誌「０７２４」を発行し、泉州全体の情報を紹介・発信しています。その情報誌を持って、町を歩いている人を見ると嬉しくなります。また、次回の「０７２４」では、泉州の遠足をテーマにする予定です。
そのほかにも「泉の和」では…。去年の岸和田港まつりでは携帯サイトで花火大会の生中継、「きしわた物語」のお手伝いなどをしています。他にスポーツイベントの応援もしていまして、エベッサ大阪（プロバスケトボールチーム）とタイアップし来年２月に総合体育館で開催される公式戦のサポート、大阪ゴールドビリケーンズ（野球の関西独立リーグ）とも関わりがあります。
子ども達にプロスポーツ選手と触れ合ってもらう機会を作れたら…。そう願っています。

《岸和田のお話》

◆商店街の活性化

かじやまち亭まちおこし紙芝居等、月一回のイベントのお手伝いをしています。明智光秀に因んだ講談を３回開催しましたが、今後毎月、講談を開催していきます。

◆　泉州の食賑い（フードストリート）

カシミンを模した泉州バーガーを考案し、販売しました。

《泉州だんじりの森プロジェクトのお話》

◆だんじりのコマ

知り合いの工務店から「コマ（アカマツ）は、あと３年くらいは何とかなるが、あとはわからんぞ」という話を聞きました。うちのまちで一回の祭礼で８個使用します。
泉州のだんじり２７５台のうち岸和田型は２５０台くらいあります。平成に入ってからだけでも泉州で１００台以上のだんじりが新調されています。
泉州地域で１年間に消費されるコマの数は約１，６００個に上ります。
アカマツは松くい虫（カミキリムシに入っている線虫のことで、その虫が松を枯らす）や酸性雨の影響で減少しており、だんじりのコマに使用できるほどの大径木は市場に出にくくなっています。そのようなワケで、最近は合わせ（集成材）のこまを使うところが増えてきています。

◆未来のだんじりにむけて

松のコマで３００年続いてきただんじりの曳行。そのアカマツが入手できなくなり、自分達の世代で使い果たし、次の世代は集成材に・・・というわけにはいかないと考えました。次世代にもアカマツのコマか集成材のコマかを選択できるようにしてあげなければならない。
そこで、自分たちの手で植えたらいいのでは！
と考えました。木が成長するには、70 年から 100 年程度かかりますが…植えよう！と。

◆廃材の利用

使用済みの１，６００個のこまの行く末はどうなっているんだろう？と考えました。自分の町では焼却処分しています。捨てるのではなく再利用して商品化し、その収益で苗木を買って…。そのようなことができないか、と思い立ちました。

廃材の商品化の一つには「積み木」があります。ほかにもいろいろと廃材の利用を考えていきたいと思っています。実際、積み木で遊んでいた子ども達に「今まで捨てていたんやでぇ」と教えると、「もったいないなー」という声が上がります。

◆いざ、植樹！

昨年１２月１３日に泉佐野市で植林しました。泉佐野市公園緑化協会が「もったいないキッズプロジェクト」（ローソンの支援）を実施しており、それをベースに松１，０００本、ひのき、けやきを３００本を植樹しました。

植樹、育樹を通して、木を大切にしようという気持ちや、感謝の心が生まれてくればよいのではと考えています。

◆これからの林業

２０年前、杉の立木の相場は６，０００～７，０００円でした。ところが最近では、一本１，０００円以下です。その影響で林業から撤退する人が続出しています。人工林は人が手を加えることを止めるとダメになります。現在、人工林のうち半分ほどが放置林です。府の森林課の WEB サイトでも、森林ボランティアの募集が大きな比重を占めています。

「だんじり祭りのためやったら森に入っても良いなあー」ということに共感の輪が広がればいいなぁと思います。だんじり以外の他の祭りにもそんな心が広がっていけば、そんなふうに思っています。有難うございました。

●フロアからの意見・質問

○若い人が、だんじり祭りと自然との関係をこんなに考えていることに感動しました。
　８０年間、世代をどうつなげていくかやね。

（　萬屋氏より）僕自身、１００年前の祭りのことを想像がつくような感覚があります。
　継続して活動するためにも、法人を設立してやっていきたいと思ってます。

○祭りよりもだんじりを好きになれと自町で皆に言っています。

○お話のお姉さんとして市内の保育所などで活動しています。ラヂオ岸和田もしていますが、積み木のおもちゃは、子どもにとってすごく良いです。

○「私が守るからね」というだんじりの森プロジェクトのテーマソングに関わっているものです。このプロジェクトがだんじり以外に、府外の人なんかにどう広げていくかが課題だと思います。

○林業の再生、こんな手があったのかと思いました。

○だんじりのない町に住んでいますが、このようなお話を聞くと心がワクワクします。

ただ、祭りのときのごみの出が気になります。

（萬屋氏より）ごみのことは解決しなければならない課題です。翌日にはすべて片付けてしまってるんですが。

○大阪の中ノ島で桜をやっていますが、市民の寄付なんかも有じゃないでしょうか。

○子どもに夢や希望を与えられるプロジェクトですね。

（萬屋氏より）だんじり祭りのイメージアップに繋がればということと、子ども達にだんじりそのものを好きになってもらってとの思いです。

○提案ですが、「０７２４」を企業にも配るっていうのはどうでしょうか。素晴らしいものなので知れば、きっと活用してくれると思います。

○「泉の和プロジェクト」と「泉州だんじりの森プロジェクト」との関係性が良くわかりました。

○かじやまちに住んでいます。昔はそんな名称で実際は北町と五軒屋町です。平成１７年に「かじやまち商店街」として名称復活しました。泉の和の皆とは縁があって知り合い、事務所が商店街にあります。